

5校音楽交流（全校音楽） 学習指導案

宇和島市立遊子小学校
教 頭 西原 睦美

1 日 時 令和6年7月1日（月） 第2校時（9:15～10:00）

2 場 所 遊子小学校体育館（結出小・日振島小・遊子小）（三浦小・蔦淵小 オンライン）

3 単元名 「校歌のすばらしさを知って・・・」

4 単元目標

令和5年度から、旧市内の音楽会に小規模校5校（蔦淵小・日振島小・戸島小・結出小・遊子小）で参加することになり、令和6年度も同じく小規模校（蔦淵小・日振島小・三浦小・結出小・遊子小（戸島小は休校））で参加することとなった。今後も児童数の減少が予想され、来年度は、遊子小と結出小が統合して遊子小に、再来年度は更に蔦淵小が統合する。そして、三浦小が別の小学校へ統合予定である。こうした状況を背景として、児童や保護者、地域は複雑な思いを抱えている。そのような中、各小学校で受け継がれてきた校歌を題材に教育活動を展開することで、互いの学校や地域のよさを知り、それぞれの学校の大切さや伝統に気付かせたり、児童同士の交流を進めたりすることで、それぞれの学校や地域を大切に思い、児童同士、また、保護者や地域の方たちがつながるきっかけになるのではないかと考えた。こうした学習を通して、児童が統合に向け、無理なく前向きに状況を捉え、互いの存在価値を認め合えるような雰囲気づくりに努め、音楽会では、「海の学校☆校歌メドレー」と題してそれぞれの学校の校歌を披露することにした。このときには、5校の保護者だけでなく、旧宇和島市内の保護者や地域の方たちにも児童の歌声を聞いてもらうことができ、5校の校歌を聞いてもらえるだけでなく、母校の校歌の意味を今一度見つめ直したり、学校や地域の存在についても思いを巡らせてもらえたりするのではないかと考えた。こうした願いを基に、音楽会で後悔のない発表になるよう意欲を高め、各校の児童の愛校心を高めたり、校歌の大切さに気付き、宇和海地域を大切に思い、それぞれの地域へのシビックプライドを醸成したりすることを目標とした。また、本校では今年度、週1時間程度を目安として全校国語を行ったり、総合的な学習の時間を3～6年生合同で行ったりしていることから、カリキュラムマネジメントにより、他教科とも関連付けながら学びを深めていくこととした。

5 指導観

- 本校に在籍している児童18名（1年生4名・2年生2名・3年生4名・4年生1名・5年生3名・6年生4名）は、それぞれ完全複式学級で学習を行っている。児童は学習課題に真面目に取り組む反面、多様な意見や考えに触れる機会が少なく、創造的な思考や活動は苦手である。音楽科については、1・2年生、3・4年生、5・6年生を自分が担当しており、毎回、必ず校歌を歌うようにしている。コロナ禍で小さい頃からマスクをして生活しているためか、大きな声を出したり、歌ったりすることが苦手な児童が多かった。しかし、指導や練習を通して、少しずつ、声の出し方を理解して、大きな声を出すことができるようになってきた。校歌については、年度当初の聞き取りでは、「行事のときに歌う学校の歌」という認識程度で、歌詞の内容や、どうしてあるかといったことについては十分に理解できていなかった。

- 本単元「校歌のすばらしさを知って・・・」は、学校教育目標である「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」を目指して、音楽科と国語科と総合的な学習の時間をつないだ学習プログラムである。「校歌」を中心に据え、計10時間で学習を行った。まず、国語科で校歌の歌詞を視写し、内容理解を進め、何のために校歌があるのか、いつ作られたのかなどを話し合い、校歌の重要性に気付かせる。その後、音楽会で一緒に参加する他校の校歌についても、交流を通して歌やその意味等を他校の児童から聞くことで、それぞれの学校にも「校歌」があり、それぞれの学校で大切にされてきたことを知る。そして、音楽科で5校合同の練習に取り組み、音楽会で各校の校歌をメドレー形式で歌って一つの曲として披露する。その後、総合的な学習の時間を活用して、統合が決まっている3校で、校歌を通して各校の歴史を調べて紹介し合い、互いの学校を大切に思う心情を育成したいと考えた。
- 本時「校歌自慢をしよう」では、音楽会に合同で参加する5校の校歌をそれぞれの学校の児童が歌って披露し、歌詞の好きなおところや意味を紹介する。参集が難しい2校についてはオンラインで参加することにした。それぞれの学校に「校歌」があり、音楽会で一つの曲として紹介することを知らせ、そんなことができるのは、自分たちの学校だからこそだということを伝えることで発表への意欲を高めたい。また、児童は、ふだん歌っている「校歌」が他校にもあり、それぞれ違った曲ではあるが、各校が大切に歌い継いできたものだということや様々な願いが込められていることを、歌や発表を聞くことで知るきっかけとなる。そこから、ただ歌っていただけの校歌の価値に気付き、自校の校歌を大切に思うだけでなく、他校の校歌も大切なものだということに気付かせたい。そして、音楽会で伴奏をしていただく外部講師の先生から、歌い方等についての技術的な面の指導を受け、それぞれの歌唱に関する課題点に気付き、今後の練習に対する意欲にもつなげたい。

6 ESDとの関連

○ 関連するSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

○ この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正

遊子だけでなく、他地域をここまで導いてきた方たちの苦労や努力に感謝し、遊子やその他の地域の人々が守ってきたものを次の世代へもきちんと引き継がなければならない。

- ・世代内の公正

美しい遊子や他地域はつながっていて、それぞれの歴史や文化を大切にしつつ、互いが幸せに生活していくためには協働していかななくてはならない。

○ この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力（システムズシンキング）

他者の意見を聞いたり、自分の考えや思いを話したりする中で、物事をより多面的・総合的に考えて、様々な考え方や捉え方があることに気付くことができる。

- ・つながりに感謝し、プロセスを大切にする力

つながりができたことに感謝し、互いの学校の歴史や地域を大切に思いながら、ともに練習を重ねて努力する過程の大切さを評価できる。

○ この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性・・・歴史、様々な事象等には全てつながりがあり、関わり合っている。
- ・公平性・・・互いに大事にしてきたことがあり、尊重し合うことが大切である。
- ・連携性・・・協力し合って、一つのものを創り出していくことは楽しい。

7 単元の評価規準（各学年の発達段階等を考慮する。）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 校歌がどのようなものか気付いている。	① 校歌の中で好きなどころや意味を考えて発表できる。	① 校歌に興味を持ち、丁寧に視写しようとしている。
② 校歌の歌詞を覚えて歌ったり、意味等を紹介したりできる。	② 歌詞の意味を考えて、歌い方に生かそうとしている。	② 校歌の中で好きなどころや意味を、進んで他者に伝えようとしている。
③ ピアノの音程やリズムに合わせて歌うことができる。	③ 校歌のよさを伝えたり、よさを感じ取ったりしている。	③ 音楽会に向けて進んで練習に取り組んでいる。
④ 学校の歴史やよさに気付いている。	④ 学校の歴史やよさを感じ取り、進んで他者に発信している。	④ 自校や他校に興味を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。

8 指導と評価の計画（教科 10 時間・学校行事 5 時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
校歌の歌詞を視写してみよう（国語 1）	歌詞の言葉を丁寧に視写しながら、歌詞の言葉を確認する。	①		①	・行動観察 ・シート
校歌の歌詞の意味を考えよう（国語 2）	歌詞の中の漢字や分からない言葉を調べたり、インタビューしたりして、意味を考える。	②	①		・発言内容 ・シート
校歌を紹介し、音楽会を成功させよう（国語 1・音楽 3）	他校へ紹介するために、紹介したい内容を考える。（国語 1）			②	・発言内容 ・シート
	自校の校歌を歌ったり、紹介したり、他校の発表を聞いたりして、互いの校歌を理解する。（本時 1・音楽 1）		③		・発表 ・シート
	5校での音楽会練習を通して、他校と交流しながら、より上手に歌う技術や表現方法を上達させる。（音楽 2）	③		③	・行動観察 ・シート
11/14 旧市内小中学校連合音楽会（学校行事 5）					
校歌の歌詞から考えよう（総合的な学習の時間 3）	自校の校歌から学校の歴史や文化を調べ、他校の発表を聞きながら、互いの学校や地域についての理解を深める。	④	④	④	・行動観察 ・歌唱

9 本時の指導

(1) 目標

自校の校歌の意味や好きなどころを紹介して校歌を歌って披露し、他校の発表や校歌を聞いて、それぞれの校歌のよさや違いを感じ取る。

(2) 準備物

ピアノ、タブレット端末、ワークシート、スクリーン、プロジェクター

(3) 展開

学習活動	時間	児童の意識の流れ	○指導上の留意点◎評価
1 本時のめあてと流れを確認する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 他の学校の友達に、自分たちの校歌のよさを知ってほしいな。 他の学校の校歌を聞くのが楽しみだな。 	○ これまでの取組を想起させ、意欲を高める。
2 指導者の紹介	2	<ul style="list-style-type: none"> 去年も教えてもらった先生だ。 上手に歌ってほめてもらいたいな。 	
3 各校で発表を行う。	30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「校歌自慢」をしよう </div> <p>発表側 発表時間 5～6分程度</p> <p>① 校歌の意味や好きな歌詞などの紹介をする。</p> <p>② 校歌を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上手に歌えるかな。どきどきするな。 自分たちの学校の校歌のよさが伝わるといいな。 <p>聞く側</p> <p>① 発表を聞きながら、思ったことや感じたことをメモする。</p> <p>② 聞いた学校の校歌のすてきだなと思ったところをメモする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の学校の校歌は、初めて聞いた。いろいろな校歌があるんだな。 	<p>○ オンラインの学校とは事前に映像等の確認をしておき、見やすい位置にタブレットを配置する。</p> <p>◎ 校歌のよさを伝えようとしている。 (発表)</p> <p>○ ワークシートに各校のよかった点を記入できるようにしておく。</p> <p>◎ 校歌のよさを感じ取っている。(シート・発言)</p>
4 指導者の講評を聞く。	2	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの校歌をほめてもらってうれしいな。 次は、もっと上手に歌いたいな。 	○ 児童の頑張り、校歌のよさ、歌い方のこつなどを伝える。
5 学習を振り返り、次時の活動への見通しを持つ。	9	<ul style="list-style-type: none"> 次に一緒に活動するのが楽しみだな。 それぞれの学校の校歌をつないで歌うのが楽しみだな。 	○ 本時の学びを全体共有し、次時への意欲を高める。

10 考察

(1) 成果

本時では、ハイブリッド型で校歌の紹介を行った。他校を巻き込む活動であり、事前に機材操作の確認を学校間で行ったり、Zoomでは聞き取れないので歌っている動画を本番で

流せるように準備したりと初めてのことが多かったが、無事にやり終えることができたことにまずはほっとした。そして、以下に各学校が他校に向けたメッセージの一部を紹介する。

遊子小学校へ一つずつ意味をみんなで考えているのがいい。2番までだったのがびっくりした。「みんななかよく」「潮の香めぐる宇和海」の歌詞が好き。校歌が5時のサイレンに似ていた。いいと思った歌詞の意味は、みんな仲良く一生けん命、楽しそうな様子を見にかもめがやってくる、今までの伝統を受け継ぎ、希望を持って、窓にかがやく笑顔、など。自然についても歌っていていい。

結出小学校へ「夕日」「結出小学校」という言葉が好き。1～3番まであるのにびっくりした。難しい言葉が入っていて、かっこいい。3番の「心をみがく」という歌詞がすてき。校歌を作った人が遊子小と一緒にびっくり。雨や嵐にも負けずにがんばっていくという気持ちを歌っているのがいい。歌詞に、地域の人の願いが込められているのがすてき。「宇和海」という言葉が入っているのが、遊子小学校と一緒にあった。

日振島小学校へ「きらきら光る波」「光の子」「どこまでも」「白いはまゆう」「にじの道」という歌詞がいい。3番の「きらきら光る波」は、波がきらきらして海が光っている様子みたいで、日振の海がきらきらしているのかなと思った。聞いていて、豊かな感じがした。遊子小学校の運動会の歌に似ているなどと思った。2番の「あかあかのぼる太陽」のあかあかに力強さを感じた。

三浦小学校へいいなと思った歌詞は、「青く澄んでいる三浦湾」「真珠のように光る海」「海の深さに負けないで」のところ。最後に「三浦小学校」と言っているのもいい。真珠のきらきらした光を表した言葉があって、海の光り方も表しているみたいだった。1番の歌詞は、海の様子が思い浮かんでくるなどと思った。結出小学校の校歌と似ていていいなと思った。

蔣淵小学校へ「かもめ」という言葉が、遊子小と同じ。日振島小の校歌にも出てきた「光の子」という言葉があった。リズムが生き生きしていて楽しそう。最後に「です。」というのが紹介している感じがした。歌詞に思いがこもっているなど感じた。3番の歌詞が、親のことにしても触れていてすばらしいと思った。「青」とか「緑」とかの色が使われていていい。「みんななかよく」「心うけつぎ」「はまゆうの花」の歌詞が好き。蔣淵のいいところがいっぱい入っていた。

各校の振り返りより

- ・5つの学校の校歌を聞くのは初めてで、他の学校の校歌もいいなと思った。
- ・他の学校の校歌を聞いて、いろいろな意味があるのだと知った。いろいろな学校の校歌の同じところやちがうところを見つけることができた。
- ・校歌の中には、特に結出小学校は「うちよする」などという少し難しい言葉で作られていてすごいと思ったし、遊子小と結出小の校歌を作曲した人は同じだと気付いた。宇和海と書いていたところが同じだと思った。
- ・他の学校は、みんな3番までであるのに遊子小学校は2番まででびっくりした。どこの学校もリズムがよくていい校歌だなと思った。
- ・それぞれの学校には、ちがうよさがあるなどと思った。他の校歌も歌えるようになりたい。
- ・校歌では、地域のことも曲の中に表されているなど知った。音楽会本番では、たくさん練習して自分の学校の校歌を自慢したい。
- ・校歌には、地域の人の思いがこめられているところがすてきだなと思った。
- ・それぞれの学校の校歌には、それぞれの地域の名前が入っているところがいい。それに、全部、海や海に関するものが入っていて、宇和海らしくて好きだなと思った。
- ・他校の子たちと交流もできて、他の小学校の校歌も知れてよかった。また、他校の子たちと仲を深めていきたい。自分の学校の校歌をみんなに知ってもらうことができてよかった。

以上のような感想から、本時の目標はある程度達成できたのではないかと感じた。そして、2学期以降、音楽会当日までに2回、本校に集まって5校での合同練習を行った。そのたびに他校から刺激を受け、それぞれの学校の歌声はレベルアップしていった。音楽会では、校歌メドレーの披露の前に、学習を通して校歌について児童から出てきた言葉をつないだ「校歌紹介」を各校の6年生が行った。紹介文は、次のとおりである。

(日振島小) 校歌・それはどの学校にもあって、昔から先輩たちによってずっと歌い継がれてきたもの

(結出小) それは地域の人の思いや願いが込められた、大切なことをぼくたちに教えてくれる歌

(蔦淵小) それは大人になっても、自分の母校を思い出すみんなの心の中に大切にしまわれている宝物

(三浦小) その、各学校の大切な校歌を今からメドレーで歌います。発表は、日振島小、蔦淵小、結出小、三浦小、遊子小の順番です。

(遊子小) 今年度は、この5校で、お互いの学校を、そして、ふるさと宇和海を大切に思い、心をつ一つにして歌いつなぎます。どうかお聞きください。



この音楽会終了後、保護者からは「感動した。」「子どもたちが一生懸命に自分の学校の校歌を歌っている姿を見て、涙が出た。」といった言葉をいただいた。子どもたちも、とても満足気で感想には、「自分の学校の校歌を聞いてもらえてよかった。」「みんなで一緒に一つの校歌メドレーとして紹介できてうれしい。」「もっと、みんなと仲良くなるために交流していきたい。」「他の学校の友達に負けないように頑張ろうと思って練習したから、自分の歌声が初めのころよりもずっとよくなった。」などと書かれていた。この後も、各校の学習発表会で、音楽会で披露した曲を発表し、地域のより多くの方にも自校の校歌を聞いてもらい、それぞれの地域で喜んでもらうことができた。特に、閉校となる3校の地域や保護者、児童にとっては、名前が残る遊子小学校、来年度入学児童1名がいて残る日振島小学校とは違った特別の思いがあったのではないと思う。3学期には、遊子小学校の閉校になる結出小へ遊子小の児童が行き、総合的な学習の時間を利用してそれぞれの学校の歴史や地域について交流する時間を設け、更なる学びの深まりにつなげたいと考えている。

(2) 課題

今回の取組は、「問いをつないで授業を創る」という児童主体の流れで単元を流すことができたとはいえ難い。他教科との関連、他校とのつながり、時間的な制約もあり、展開や評価等の難しさを感じた。カリキュラム・マネジメントで他教科をつないだとしても、各教科の目標はしっかりしておかないと、授業で身に付けさせるべき到達点に行きつかない。そうした点も踏まえ、目標を明確にして1時間1時間の授業に取り組む必要性を感じている。そうした中でも、「問いをつないで児童が授業を創る」展開ができることを目指して、今後も研究を続けたい。本単元は、3学期以降の総合的な学習の時間の学習につながっている。こうした学びの場を与えていただくティーチャー・プログラムに感謝し、育てたい児童の育成を目指して、今後も児童とともに学びを深めていきたいと思う。

遊子小学校での学びを通して育てたい児童像

保護者や地域と連携協働して地域の教育資源を最大限に生かしたふたふたさと教育を推進することで、持続可能な社会を目指して主体的・対話的に学習に取り組む、ふるさと遊子に対するシビックプライドを持って自主的に考えて行動できる児童の育成を目指す。



自分たちの校歌には、どんな意味や歴史があるのだろうか。他の学校の校歌も聞いてみたい

音楽科 音楽会に向けた取組（5校交流を通して）

令和5年度より、児童数の減少に伴い、音楽会に5校合同（蔦淵小3名・日振島小6名・戸島小6名・結出小3名・遊子小21名）で参加するようになった。今年度も、5校（蔦淵小3名・日振島小1名・結出小3名・三浦小13名・遊子小18名（戸島小休校））で参加することとなった。今年度末に結出小、来年度末に蔦淵小・三浦小が統合により閉校となる予定である。

こうした中、各校が合同で音楽会に参加することができ、発表の機会を利用して、各校の校歌を「海の学校☆校歌メドレー」と題して発表することにした。発表に向けて、ただ歌の練習をするだけでなく、それぞれの学校の伝統や地域について校歌を通して知り、自分の学校や地域を大切に思い気持ちを育むとともに、閉校となる学校にも歴史や伝統があり、それを尊重する気持ちを高めたい。こうした活動を通して、持続可能な社会を創るために自分たちができること、これから取り組みたいことについて考えを深めていく。

○主に養いたいESDの資質・能力

批判的に考える力（クリティカルシンキング）

体験学習や調べ学習から、自分が得た経験や知識が実際の場でのように活用できるか、よりよい方法や解決につながるかをじっくりと考えることができる。

多面的・総合的に考える力（システムズシンキング）

他者の意見を聞いたり、自分の考えや思いを話したりする中で、物事をより多面的・総合的に考え、問題点に気付いたり、その改善策について考えたりすることができる。

つながりに感謝し、プロセスを大切にできる力

全てが自分とつながり、関わりがあることに気付き、結果だけではなく、それに向かう過程の大切さを評価できる。

学校行事
（音楽会・学習発表会）

対外的な発表の場が多くの方への発信ができるだけでなく、成果を披露し、児童の充実感・達成感につながる。

練習を頑張ってきてよかったな。

国語科 全校での対話活動を通して

本校では、今年度、1～6年生での全校国語の時間を週1時間設けることとした。この時間に、校歌についての話し合いや俳句づくりなどを通して、互いの意見を交流し、多様な意見や考えに触れて、学びを深めていく。

みんなの考えを聞くのは楽しいな。自分の考えも聞いてほしい。

遊子って、すごいところだな。

遊子の人や海のために、できることはなんだらう。

総合的な学習の時間（全70時間）

「海の学習」

（養殖博士になろう（真珠・養殖魚生物学）・鉄炭団子づくり・EM石けんづくり・漁業の歴史学習会・海洋ごみ学習）

「段畑学習」

（じゃがいも掘り・じゃがいも饅頭づくり・石築体験・段畑の歴史）

「遊子の伝統文化」

（だんだん祭り・龍王太鼓・しめ縄づくり等）

「防災学習」

（遊子の防災大作戦！（学校裏の避難路の歴史・避難グッズ・フィードバックによる防災マップづくり・地域の防災を考えよう）